

第18回 エックス線被ばく事故検討WG 議事概要

1. 開催日時：2022年4月27日（水）午前9時00分～10時00分
2. 開催場所：Zoom を用いたオンライン開催
3. 出席者：（順不同、敬称略）
飯本武志、古渡意彦、山口一郎、榎本 敦、浜田信行、橋本 周、秋吉優史、笠井篤、福土政広、阪間 稔、高橋賢臣、小嶋光明、川島恒憲、中村美和
4. 紹介資料
資料 経過報告書案
5. 議事
 - (1) 経過報告書全体について
資料に基づき、古渡副委員長より経過報告書案について現状の報告があり、委員から届いたコメントのうち、特にWGにおいて議論が必要な検討事項について議論した。
委員から以下の意見があった。
 - 経過報告書各節の要約は不要とする。
 - 経過報告書には提言を盛り込まず、最終報告書発刊までに検討することとした。
 - 経過報告書の公開時には各節の執筆者名を削除する。ただし、経過報告書内に別途各章各節の原案執筆者リストを記載する。
 - エックス線発生装置、放射線発生装置、放射性同位元素、核燃料物質等の各放射線源についての整理とそれらを規制する現行法令の対応関係について、エックス線発生装置を中心とした図表に整理し直す。
 - (2) 日本放射線安全管理学会と日本保健物理学会のシンポジウムについて
放射線安全管理学会6月シンポジウム（6月16日）及び保物シンポジウム（6月28日、29日）における本WGの活動紹介の進め方について、事務局から紹介した。各シンポジウムでの発表内容案について、委員から以下の意見、コメント等があった。
 - 各シンポジウムで紹介する内容の範囲について質問があり、事務局より経過報告書で議論した範囲内にとどめるとの回答があった。
 - シンポジウムでの発表内容に関連し、広く原子力事故まで扱うべきとの意見があり、事務局より、経過報告書発刊後も当WGの目的である放射線安全文化を醸成する観点で必要な議論を継続する方針を発表の中に含めるとの回答があった。
 - (3) その他
 - WGメンバーに配布していた第17回WGの議事要旨を確認し、承認を得た。
 - 第19回は2022年5月12日9時～11時で開催することとした。また、千葉県環境研究センターご担当者より、モニタリングポストで観測されるエックス線発生装置からの漏えい放射線測定に関する話題提供を予定している。

以上